

三樹会病院における臨床統計 (第8報)

— 1987年度外来新患統計 —

医療法人(社団)三樹会病院(院長:丹田 均)

丹田 均, 加藤 修爾, 大西 茂樹

中嶋 久雄, 毛利 和富

CLINICAL STATISTICS ON OUTPATIENTS AT THE UROLOGICAL CLINIC OF SANJUKAI HOSPITAL IN 1987

Hitoshi TANDA, Shuji KATO, Shigeki OHNISHI,

Hisao NAKAJIMA and Kazutomi MORI

From Urological Clinic of Sanjukai Hospital

(Chief: Dr. H. Tanda)

The total number of new outpatients in 1987 was 8,062 (male 5,056, female: 3,006) and the male to female ratio was 1.68:1. They had urogenital diseases definitely diagnosed (7,197), urogenital diseases undefinitely diagnosed (536), no diseases (269), and diseases other than urogenital (60). Thirty percent of the outpatients were referred to us by other sources. The number of operations on new outpatients was 216, circumcision, resection of condyloma and vasectomy were representative. The peak of the age distribution was in the thirties for males and in the fifties for females. A statistical study was made on new outpatients according to the international classification of disease. There were 125 malignant (urogenital) tumors (1.6%). The major diseases of the new outpatients were cystitis (acute or chronic: 22.0%), upper urinary tract stone (15.9%), prostatitis (13.9%), and benign prostatic hypertrophy (11.9%). In males the major diseases were prostatitis, upper urinary tract stone, benign prostatic hypertrophy, balanoposthitis, phimosis and in females they were cystitis, upper urinary tract stone, pyelonephritis, renoptosis, and neurogenic bladder.

We conclude that our hospital plays a major role as a private urological hospital.

(Acta Urol. Jpn. 34: 2213-2218, 1988)

Key words: Clinical statistics, Outpatients clinic

緒 言

1987年度の三樹会病院(泌尿器科単科, 日本泌尿器科学会専門教育施設認定およびESWL施設認定)の外来新来患者(以下新患とす)の統計を報告する。

対象と方法

1987年1月1日より同年12月末日までの1年間に当院に受診した新患を対象とした。疾病分類は, 第1報に報告した第8回修正分類を, WHOにより定められた国際疾病分類を厚生統計協議会の第4部会『疾病・傷害および死因統計分類に関する部分』において検討し, 日本で採用すべき疾病・傷害および死因統計分類を定めた第9回修正分類を採用した。

結果と考察

1. 新患数

新患総数は, 8,062例で男子5,056例(62.7%), 女子

Table 1. 新来患者数(1987年度)

男 性	5,056	(62.7%)
女 性	3,006	(37.3%)
合 計	8,062	(100.0%)
紹介患者数	2,837	(35.2%)

Table 2. 新患の内訳(1987年度)

	男 性	女 性	合 計	
確 診	4,534	2,663	7,197	(89.3%)
未 診	280	256	536	(6.7%)
正 常	206	63	269	(3.3%)
他 科	36	24	60	(0.7%)
合 計	5,056	3,006	8,062	(100.0%)

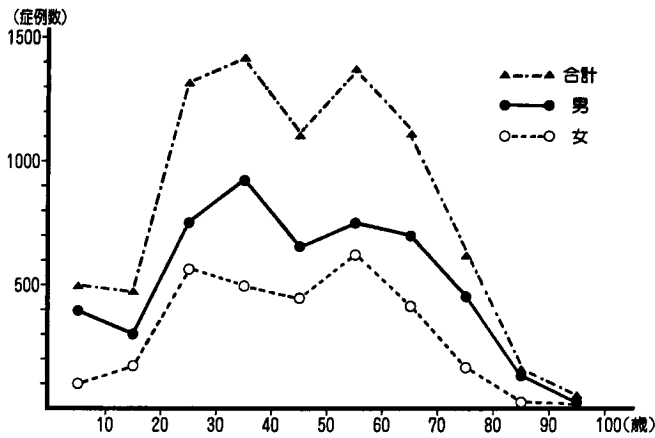


Fig. 1. 外来新患の年齢層別性別分布 (1987年度)

Table 3. おもな外来手術名と例数 (1987年度)

手術名	216
環状切開	73
精管結紮	51
コンジローマ切除	27
カルンケル切除 (女)	13
嵌頓包茎整復	8
その他	44

3,006例 (37.3%) であった。男女比は1.68 : 1 であった。昨年度の総数は8,174例で約100例減じた。また、他医より紹介を受けた患者数は2,837例 (35.2%) で、昨年2,594例に比し、逆に約250例多かった (Table 1 参照)。

Fig. 1 に新患の年齢層別受診数を図示した。男子では、30歳代にピークを示し、女子では50歳代にピーク

Table 4 (1)

I 感染症および寄生虫症

	(例数)	(男)	(女)
016 泌尿生殖系の結核			
016.0 腎	10	3	7
096 梅毒	5	5	0
098 淋菌感染			
098.0 急性, 下部泌尿生殖器	78	75	3
099 その他の性病			
099.1 軟性下疳	1	1	0
099.4 その他の非淋菌性尿道炎	70	68	2
(076) ヘルペス	23	18	5
(078) クラミジア	12	8	4
(112) カンジダ症	13	9	4
(132.2) 毛じらみ症	9	8	1
<性病の検査>	36	27	9

Table 4 (2)

II 新生物 (悪性)

	(例数)	(男)	(女)
159 後腹膜腫瘍	2	1	1
185 前立腺癌 (経過せる)	38 (6)	38 (6)	0 (0)
186 睾丸腫瘍 (経過せる)	1 (4)	1 (4)	0 (0)
187 陰茎 その他の男性生殖器	0		
188 膀胱腫瘍 (経過せる)	59 (13)	47 (13)	12 (0)
189.0 胃癌 (経過せる)	11 (2)	9 (1)	4 (1)
189.1 189.2 腎盂・尿管腫瘍 (経過せる)	5 (1)	4 (1)	1 (0)
189.3 尿道腫瘍	1	1	0
182 子宮癌 (尿路侵襲)	5	0	5
183 卵巣癌 (尿路侵襲)	1	0	1
194.0 副腎腫瘍	2	1	1

II 新生物 (良性)

	(例数)	(男)	(女)
078.1 外陰部コンジローマ	38	37	1
223.8 尿道ポリープ	0		
599.3 尿道カルンケル	38	0	38
222.1 陰茎腫瘍	4	4	0
222.4 陰囊腫瘍	8	8	0

クを示した。男女合計でみると、30歳代と50歳代の2相性の山型の受診数を示した。この傾向は一昨年より昨年にかけて示され、今年度にはっきりとその傾向を示した。おそらく50歳代のピークは健診で指適された

血尿の精査や ESWL による結石症の治療のために受診した結果かと考えている。新患の内訳を Table 2 に示した。

確診は総計8,062例のうち7,197例(89.3%)で、未診は536例(6.7%)、泌尿器科の正常は269例(3.4%)、他科は60例(0.7%)であった。入院患者総計は1,247例でうち紹介を受けた患者は793例(63.6%)であった。

2. 外来患者手術

外来扱いの手術数は216例でその内訳を Table 3 に示した。例年のごとく、包茎の環状切除、精管結

紮、コンジローマ切除が主なるものであった。

3. 国際疾病分類 (ICD) 第9回修正分類に基づく、1987年度新患統計 (Table 4 (1)~(9) 参照)

Table 4 (1) に示したごとく、感染症では、STD としての分類がないので、ここにまとめた。また外来での臨床検査も可能になったこともあり、ヘルペス、クラミジア、カンジタ症の診断が可能になった。

Table 4 (2) に新生物の疾患数を示した。全尿路悪性腫瘍は125例で有疾患数の1.6%であった。膀胱腫瘍は59例受診し、例年の例数であった。

Table 4 (3) に内分泌・代謝性疾患をまとめた。IMP 50例で心因性患者に良好なる成績をあげている。XXY 症例の3例は外来で無・乏精子症に対して sex chromatin にて screening test を行った結果である。最近、血精液症が増えているのが注目されている。確なる原因は前立腺炎以外は確認されていない。

Table 4 (4, 5, 6) に泌尿生殖系の疾患を示した。

Table 4 (3)
Ⅲ 内分泌、栄養および代謝疾患
ならびに免疫障害

	(例数)	(男)	(女)
257 睾丸機能障害			
(606) 無精子症	10	10	0
(606) 乏精子症	23	23	0
(758.5) XXY 症例	3	3	0
(792.2) 死精子症	1	1	0
(608.8) 血精液症	32	32	0
259.0 晩発思春期	3	3	0
302 性的障害 (IMP)	52	52	0
274 高尿酸血症	4	3	1
307.6 夜尿症	31	20	11

Table 4 (4)
Ⅳ 泌尿生殖系の疾患

	(例数)	(男)	(女)
580 急性糸球体腎炎	2	2	0
581 ネフローゼ症候群	10	4	6
582 慢性糸球体腎炎	34	18	16
583 糖尿病性腎症	4	3	1
584 急性腎不全	2	2	0
585 慢性腎不全	13	10	3
589 腎の萎縮	15	7	8
590.0 腎盂腎炎	183	24	159
591 水腎症	44	25	19
593 腎および尿管のその他の障害			
593.0 腎下垂	107	5	102
593.5 水尿管	6	2	4
593.7 V. U. R (経過好)	20	6	4
(9)	(8)	(1)	
593.8 腎梗塞	1	1	0
593.0 腎下垂	107	5	102
593.2 腎嚢胞	94	57	37
593.4 尿管狭窄	6	2	4

Table 4 (5)

	(例数)	(男)	(女)
592 腎および尿管結石			
592.0 腎の結石	302	182	120
腎結石			
単発性			
(両)	21	11	10
(右)	94	53	41
(左)	86	52	34
多発性			
(両)	18	12	6
(右)	11	10	1
(左)	23	20	3
(経過せる)	(19)	(11)	(8)
錐型結石(両)	1	1	0
(片)	16	8	8
(経過せる)	(1)	(0)	(1)
腎杯憩室結石	11	4	7
海綿体腎結石	1	0	1
	79	53	26
腎・尿管結石(両)	4	2	2
(片)	52	36	16
(経過せる)	(6)	(6)	(0)
両側腎結石 + 片側尿管結石	10	5	5
片側腎結石 + 片側尿管結石	7	4	3
592.1 尿管の結石	894	618	231
単発性			
(両)	8	7	1
(右)	348	247	101
(左)	435	325	110
(経過せる)	(44)	(31)	(13)
多発性			
(両)	1	1	0
(右)	3	1	2
(左)	8	6	2
尿管瘤結石	2	0	2
	(1230)	(853)	(377)
594 下部尿路の結石			
594.1 膀胱結石	28	24	4
594.2 尿道結石	7	6	1

Table 4 (6)

	(例数)	(男)	(女)
595 膀胱炎	935	23	912
595.3 尿道膀胱炎	740	18	722
597.0 尿道炎	33	19	14
596.0 膀胱頸部硬化症	9	9	0
596.3 膀胱憩室	2	1	1
586.8 萎縮膀胱	1	0	1
598 尿道狭窄	36	35	1
600 前立腺肥大症	923	923	0
601.0 前立腺炎(急性)	27	27	0
601.1 前立腺炎(慢性)	1047	1047	0
603 陰嚢水腫	45	45	0
604 睪丸炎	5	5	0
副睪丸炎	101	101	0
605 包茎	188	188	0
嵌頓包茎	15	15	0
607 陰茎の障害			
607.0 陰茎硬結	2	2	0
607.1 亀頭包皮炎	266	266	0
608 男性生殖器のその他の障害			
608.1 精液瘤	5	5	0
精索水腫	13	13	0
(456.4) 精索静脈瘤	8	8	0
608.2 睪丸捻転	9	9	0
睪丸垂捻転	4	4	0
608.8 精管結紮状態	6	6	0
618 膀胱脱	1	0	1
619.0 尿管と女性生殖路間の瘻	1	0	1
膀胱と女性生殖路間の瘻	3	0	3
599 尿道・皮膚瘻	1	1	0
596.2 膀胱瘻	1	0	1
997.5 腎瘻状態	2	1	1
ブリッカー状態	2	0	2
尿管皮膚瘻	3	1	2

Table 4 (4, 5) に示したごとく上部尿路疾患では、結石、腎盂腎炎、水腎症、腎下垂が主なるものであった。Table 4 (5) に結石症(上部尿路1,230例、下部尿路35例)をまとめた。昨年度の上部尿路結石症は1,296例であったので、ほぼ同数受診した。尿道結石はすべて内視鏡的操作により破碎または摘出している。

Table 4 (6) に下部尿路疾患、外陰部、その他の疾患を示した。膀胱炎、前立腺炎、前立腺肥大症が圧倒的に多く、次いで、亀頭包皮炎、包茎であった。稀な尿管と腔との瘻孔状態の症例は子宮筋腫の手術時に尿管を結紮、その後、水腎症、腔よりの尿漏を認めたもので、内視鏡的に結紮部の切除、DJ stent 挿入により治癒させたものである。

Table 4 (7)

XIV 先天異常

	(例数)	(男)	(女)
752 生殖器の先天異常			
572.5 停留睪丸	25	25	0
(経過せる)	(7)	(7)	(0)
遊走睪丸	13	13	0
(経過せる)	(2)	(2)	(0)
752.6 尿道下裂(経過せる)	(3)	(3)	(0)
752.8 傍尿道口嚢腫	7	7	0
753 泌尿器の先天異常			
753.1 嚢胞腎	10	7	3
海綿腎	2	1	1
形成不全腎	1	0	1
753.3 迴転腎	6	1	5
馬蹄腎	5	4	1
骨盤腎	1	0	1
分葉腎	1	0	1
重複腎盂			
兼不完全重複尿管	25	10	15
兼完全重複尿管	7	2	5
腎杯憩室	4	3	1
753.4 尿管瘤	4	3	1
下大静脈後尿管	2	0	2
(442.1) 腎動脈瘤	1	0	1

Table 4 (8)

XVII 損傷および中毒

	(例数)	(男)	(女)
866 腎外傷	5	3	2
尿管損傷	1	1	0
867.0 尿道断裂(完全)	3	3	0
尿道断裂(不完全)	7	7	0
867.6 睪丸打撲	5	5	0
睪丸破裂	2	2	0
陰嚢血腫	1	1	0
陰茎折症	0	0	0
陰茎損傷	7	7	0
外陰部外傷	10	6	4
(306), (344), (596)			
神経因性膀胱	146	81	65
939 尿生殖路内の異物			
939.0 尿道異物	1	1	0
膀胱異物	1	1	0
939.9 陰嚢内異物	1	1	0

Table 4 (7) に先天異常を示した。停留睪丸、重複腎盂が主なるもので、稀な下大静脈後尿管2例を経験した。

Table 4 (8) に損傷を示した。分類がはっきりしない神経因性膀胱、異物も同時にまとめた。

Table 4 (9) に症状・徴候および診断名不明確の状態を示した。疼痛は結石症の精査のため受診したも

のである。血尿は結石症の他, 健診後精査を求めて受診したものである。

ま と め

1. 1987年度新患の主疾患は膀胱炎 1,698例 (22.0%), 上部尿路結石症 1,230例 (15.9%), 前立腺炎 1,074例 (13.9%), 前立腺肥大症 923例 (11.9%) であった (Table 5 参照)。

2. 1987年度男・女別の新患の主疾患は, 男子では, 前立腺炎 1,074例 (22.3%), 前立腺肥大症 923例 (19.2%), 上部尿路結石症 853例 (17.7%) であった。一方女子では, 膀胱炎 1,648例 (56.5%), 上部尿路結石症 377例 (12.9%) であった。

この論文の主旨は1988年4月2日 (土), 第291回日本泌尿器科学会北海道地方会にて発表した。

参 考 文 献

- 1) 丹田 均, 加藤修爾, 大西茂樹, 坂 丈敏, 中嶋久雄: 東札幌三樹会病院における臨床統計 (第1報), 1983年度外来新患統計. 泌尿紀要 30: 1671-1676, 1984
- 2) 加藤修爾, 大西茂樹, 坂 丈敏, 中嶋久雄, 丹田均: 東札幌三樹会病院における臨床統計 (第2報), 開設より5カ年余の外来新患統計. 泌尿紀要 30: 1677-1684, 1984
- 3) 丹田 均, 加藤修爾, 大西茂樹, 坂 丈敏, 中嶋久雄: 東札幌三樹会病院における臨床統計 (第3報) 1984年度外来新患統計. 泌尿紀要 31: 1743-1749, 1985
- 4) 坂 丈敏, 中嶋久雄, 大西茂樹, 加藤修爾, 丹田均: 東札幌三樹会病院における臨床統計 (第4報), 開設より5カ年余の入院および手術統計. 泌尿紀要 31: 1751-1759, 1985
- 5) 丹田 均, 加藤修爾, 大西茂樹, 坂 丈敏, 中嶋久雄: 東札幌三樹会病院における臨床統計 (第5報) 1984年度入院患者統計. 泌尿紀要 31: 1995-2002, 1985
- 6) 丹田 均, 加藤修爾, 大西茂樹, 中嶋久雄, 坂丈敏・東札幌三樹会病院における臨床統計 (第6報), 1985年度外来新患統計. 泌尿紀要 33: 730-

Table 4 (9)

XVI 症状, 徴候および診断名
不明確の状態

	(例数)	(男)	(女)
788 泌尿系に関する症状			
788.0 腎(腹)部疼痛	145	76	69
788.1 排尿障害	6	1	5
788.2 尿 閉	5	2	3
788.3 尿 失 禁	28	5	23
788.4 頻尿および多尿	59	30	29
788.5 乏 尿 (浮腫)	2 (32)	0 (4)	2 (28)
(586) 尿 毒 症	12	7	5
791 尿検査の非特異的所見			
791.0 蛋 白 尿	24	18	6
(599.0) 細菌尿	2	0	2
(599.7) 血 尿	248	117	131
腎 出 血	20	9	13
血尿+蛋白尿	9	6	3
791.1 乳 び 尿	1	0	1
780.6 発 熱	2	2	0
不 妊	4	4	0
788.1 残 尿 感	17	16	1

Table 5. まとめ(1) 1987年度外来新患の主疾患

主 疾 患	例 数	(1987年度%)
1 膀胱炎 (急性・慢性)	1,698	(22.0%) (1)
2 上部尿路結石症	1,230	(15.9%) (2)
3 前立腺炎 (急性・慢性)	1,074	(13.9%) (3)
4 前立腺肥大症	923	(11.9%) (4)
5 龜頭包皮炎	266	(3.4%) (5)
6 包莖 (嵌頓包莖含む)	203	(2.6%) (6)
7 腎盂腎炎	183	(2.4%) (9)
8 神経因性膀胱	146	(1.9%) (7)
9 腎下垂	107	(1.4%) (-)
10 副睾丸炎	101	(1.3%) (-)
11 その他 腎のう胞(94) 淋菌感染(78) 膀胱腫瘍(59)		

() %は有疾患数 7,733例に対する割合

Table 6. まとめ(2) 1987年度新来患者男・女の主疾患

(男) (女)

主 疾 患	例 数	順位	主 疾 患	例 数
前 立 腺 炎	1,074 (22.3%)	1	膀 胱 炎	1,648 (56.5%)
前立腺肥大症	923 (19.2%)	2	上部尿路結石	377 (12.9%)
上部尿路結石	853 (17.7%)	3	腎 盂 腎 炎	159 (5.4%)
龜 頭 包 皮 炎	266 (5.5%)	4	腎 下 垂	102 (3.5%)
包 莖	203 (4.2%)	5	神経因性膀胱	65 (2.2%)

() %は有疾患数に対する割合: 男 4,814例
女 2,919例

- 734, 1987
7) 丹田 均, 加藤修爾, 大西茂樹, 中嶋久雄, 毛利
和富: 三樹会病院における臨床統計(第7報),

1986年度外来新患統計. 泌尿紀要 **33**: 1662-
1668, 1987

(1988年5月31日迅速掲載受付)